三重型の「ワーケーション」

　コロナ下の新しい働き方として注目されるワーケーション。「ワーク（仕事）」と「バケーション（休暇）」を組み合わせた造語で、アメリカ発祥の働き方だ。テレワークを活用し、リゾート地をはじめ、普段の職場とは異なる場所で休暇を取りつつ働くこととされる。日本では加えて、家族で楽しめるアクティビティーや住民との交流など、地域独自のコンテンツが体験できる新たなワークライフスタイルと紹介されている。

　ワーケーションの受け入れ側には、地域の活性化などのプラス効果が期待されている。今年度、県はワーケーションにおける「みえモデル」の構築を目指し、有識者や市町、事業者などによる研究会の開催などに取り組んでいる。ワーケーション推進には、地域の幅広い魅力発信が必要で、その上でワーケーションをする人と、地域とをつなげる「コーディネーター」の存在がキーとなる。県はその人材の育成を目的とした「ワーケーション講座」も開催している。全国の先進事例や受け入れのポイントを習得するため、県内各地から定員を超える参加者が集まり、注目度の高さがうかがえる。

　これらの取り組みを通じ、三重独自の特色あるワーケーションが県内各地で増えていくことを期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ　研究員　服部 諒）

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」　2021 年 12 月 6 日